

薬剤耐性ワンヘルス動向調査について

国際的に脅威となる感染症対策の強化のための国際連携等関係府省連絡会議

(薬剤耐性 (AMR) アクションプランのフォローアップ、年度末)

: 内閣官房内閣感染症危機管理統括庁



厚生科学審議会感染症部会



薬剤耐性 (AMR) 小委員会



※厚労省関係の審議会のみ記載

薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会

(アクションプランの進捗状況に資する調査)

: 厚生労働省、農林水産省、内閣府食品安全委員会、環境省 等

年次報告書

- ・日本語版
- ・英語版
- ・サマリ版

データの基礎となる調査事業等

厚労省

- ・院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS)
- ・感染症発生動向調査事業
- ・感染対策連携共通プラットフォーム (J-SIPHE)
- ・抗菌薬使用サーベイランス
- ・厚労科研・AMED
- ・疫学調査

農水省

- ・動物由来薬剤耐性菌モニタリング (JVARM)
(生産資材安全確保委託事業、消費・安全対策交付金事業)
- ・各種法令等に基づく届出・報告等

内閣府・食安委

- ・食品健康影響評価技術研究事業

環境省

- ・環境研究総合推進費
- ・環境水中における薬剤耐性大腸菌存在状況調査(試行)
- ・化学物質環境実態調査

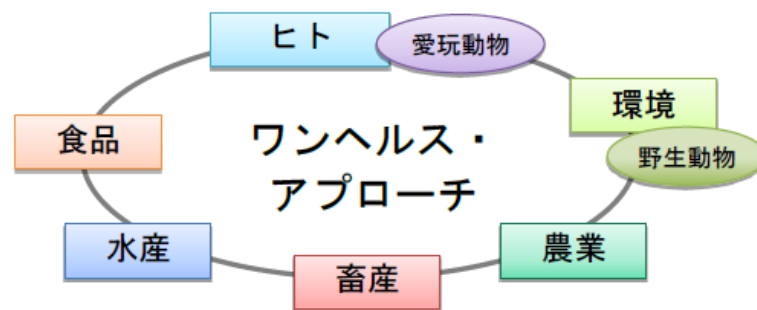
薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）

目標2. 戦略2.5 ヒト、動物、食品、環境等に関する総合的なワンヘルス動向調査の実施

【背景】

○ 薬剤耐性（AMR）の伝播経路を断ち切るためには、どの種類の薬剤耐性（AMR）がどの経路により、どの程度広がっているのか、という薬剤耐性（AMR）の生態系を正確に把握する必要がある。

○ 我が国におけるヒトや動物等に対する、薬剤耐性菌及び抗微生物剤の使用量（AMU）のサーベイランス体制としては「院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）」、「感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）」、「動物由来薬剤耐性菌モニタリング（JVARM）」、等がある。



ワンヘルス・アプローチに基づく協働体制

【方針・取組】

○ 複数の動向調査・監視を統合した、ヒト、動物等の垣根を越えた動向調査体制（ワンヘルス動向調査体制）を確立するため、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」を設置する。

○ 「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」において、各動向調査・監視の情報を連携させ、国際比較等も行いながら、薬剤耐性（AMR）の推移や対策等について分析・評価を行う。また、評価結果は「動向調査報告書」として、毎年公表し、「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）」の評価に活用する。

【関係府省庁・機関】

内閣府食品安全委員会、農林水産省、環境省、厚生労働省

国立感染症研究所、動物医薬品検査所、農業・食品産業技術総合研究機構、農林水産消費安全技術センター、国立国際医療研究センター、保健所、地方衛生研究所、家畜保健衛生所

薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会の開催要綱（一部抜粋）

1. 目的

近年の薬剤耐性（Antimicrobial Resistance: AMR）対策を進める機運の高まりのなかで、ヒト、動物、食品、環境といった垣根を超えた「ワンヘルス」としての薬剤耐性に係る統合的な動向調査の重要性が指摘されている。

令和5年4月7日に策定された「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン2023-2027」においても、このような「薬剤耐性ワンヘルス動向調査」に係る体制を推進することとしている。

こうした状況を踏まえ、「**薬剤耐性ワンヘルス動向調査**」に係る技術的事項について検討することを目的として、**厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長の下**、有識者の参集を求め、**薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会**（以下「検討会」という。）を開催し、所要の検討を行い、**年次報告書**をとりまとめる。

4. その他

（1）検討会は厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長が開催する。

（2）検討会の庶務は、農林水産省消費安全局畜水産安全管理課、環境省水・大気環境局総務課の協力を得て、厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課において処理する。

（3）検討会は、原則として公開とする。

（4）この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、検討会において定める。

薬剤耐性（AMR）に関する小委員会

- ・ 厚生科学審議会感染症部会の下に設置
- ・ 薬剤耐性対策アクションプラン（教育・普及啓発、動向調査・監視、感染予防・管理、抗微生物薬適正使用、研究開発、国際協力等）に関する対策のうち、厚労省が所管する専門的・技術的事項の審議
- ・ 薬剤耐性対策アクションプランのうち、主として、ヒトの健康に関する対策の進捗評価 等

抗微生物薬適正使用（AMS）等に関する作業部会

- ・ 薬剤耐性（AMR）に関する小委員会の下に設置
- ・ 適正使用に関する専門家等により構成
- ・ 抗微生物薬適正使用等に関する技術的助言
 - － 抗微生物薬適正使用を推進するための指針等の検討
 - － 研究結果等に基づいた抗微生物薬適正使用に関する施策の提言 等

薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会

- ・ 薬剤耐性に関する動向調査・監視等に関わる実施機関、専門家等により構成
- ・ 薬剤耐性に関する「ワンヘルス・サーベイランス」に関する技術的助言
 - － 動向調査・監視の分析項目や体制等の検討
 - － 動向調査・監視の結果に基づく薬剤耐性対策に関する施策の提言 等

薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2024：目次

1. 前文	1
2. 略称	2
3. 抗菌薬・抗菌剤の種類と略号	4
4. 要旨	8
5. アクションプランの成果指標	12
6. 日本における耐性菌の現状	16
(1) ヒト	16
① グラム陰性菌	16
② グラム陽性菌	23
③ 薬剤耐性菌感染症	29
④ その他の耐性菌	31
⑤ <i>Candida auris</i>	42
⑥ <i>Mycobacterium tuberculosis</i>	42
⑦ <i>Clostridioides difficile</i> 感染症	43
⑧ 院内感染症の発生状況	44
⑨ 病院における感染診療・感染対策・疾病負荷に関する調査	45
⑩ 療養病床および高齢者施設における感染症および抗菌薬使用に関する調査	49
(2) 動物	51
① 家畜由来細菌	51
② 養殖水産分野	69
③ 愛玩動物	73
④ 野生動物	81
(3) 食品	86
(4) 環境	88
① 厚生労働省の厚生労働科学研究による結果	88
② 環境研究総合推進費課題成果（令和2年度～令和5年度） ¹⁰⁻¹²	90
③ 食品健康影響評価技術研究による成果（令和2年度～令和3年度） ¹⁵	93
(5) ゲノムサーベイランス	95
7. 日本における抗菌薬使用量の現状	115
(1) ヒト用抗菌薬	115
① 日本全体の抗菌薬使用状況	115
② 院内の注射用抗菌薬の使用状況	123
(2) 動物用医薬品	126
① 畜産動物	128

② 水産動物	129
③ 愛玩動物	130
(3) 抗菌性飼料添加物	132
(4) 農業	133
(5) 日本における抗菌薬使用の現状	134
(6) 抗菌薬適正使用についての研究	139
(7) 動物用抗菌剤の慎重使用についての研究	143
(8) 環境	144
8. 日本における薬剤耐性に関する国民意識	146
(1) 一般国民への調査	146
① 国民を対象とした意識調査	146
(2) 医療関係者への調査	148
① 診療所医師を対象とした意識調査	148
② 薬学部教育における感染症・抗菌薬に関する研究	149
(3) 動物分野関係者への調査	150
(4) 獣医学生への調査	153
9. 今後の展望	155
参考資料	157

 ⑤ *Candida auris* : 2024年追加項目

薬剤耐性（AMR）ワンヘルス動向調査年次報告書2024では、新たに以下の項目（表中の青枠箇所）を追加した。

- ・ 薬剤耐性真菌（カンジダ・アウリス）
- ・ ゲノムサーベイランス（三輪車プロジェクト等）

薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2024：概要

【時点更新】

○ 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）の成果指標、等

- ・ 成果指標については、特定の薬剤耐性菌の分離率および抗菌薬使用（DID）について、ヒトでは2023年、動物では2022年のデータを追加した。

【新規追加項目の概要】

○ 目次6.日本における耐性菌の現状

（1）ヒト ⑤ *Candida auris*（カンジダ・アウリス）

主な内容：2022年、本邦初症例（侵襲性 *C. auris* 血症）が報告された。サーベイランス開始以降、2024年7月時点で55例、いずれも耳漏等の局所感染もしくは保菌例であった（フルコナゾール耐性は20%弱）。

○ ゲノムサーベイランス

第11回薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会（令和5年度）にて、ヒト・動物・食品・環境も含めた相互の関係性を明らかにするために、ゲノムサーベイランスの項を追加してはどうか、とのご意見をいただいた（渡邊座長、松永構成員）。

（4）環境 ③ 食品健康影響評価技術研究による成果（令和2年度～令和3年度）

- ・ 家畜、水圏、野菜、ヒトから分離された薬剤耐性菌について、ゲノム解析を実施したが、各耐性菌の系統発生分類は多岐にわたり、各由来株間での明確な関連性は確認できなかったものの、特定の遺伝子については、プラスミド等により由来を超えて耐性遺伝子とその周辺構造が、伝播、拡散している可能性が示唆された。

（5）ゲノムサーベイランス

- ・ ヒト由来の耐性菌株が、食品由来株および動物由来株とゲノムレベルでどれだけ類似しているのかをゲノムの塩基配列データを比較した（対象：non-typhoidal *Salmonella enterica*、*Campylobacter* spp.、*Enterococcus* spp.）。
- ・ WHOサーベイランスと協調したワンヘルス薬剤耐性菌動向調査（三輪車プロジェクト）

ヒト・環境・食品分野における菌株収集を実施・解析することで、日本国内それぞれの分野でのESBL-*E. coli*の分離割合が明らかになった。